

# 小児がん診療拠点病院等における 入院中の子どもへの保育・教育支援体制の現状と課題

栗山 宣夫<sup>1)</sup>

## Current Status and Problems of Childcare and Educational Support System for Hospitalized Children at Children's Cancer Treatment Facilities

Nobuo Kuriyama

### Abstract

The actual situation of the child care and educational support system of the child who is hospitalized for childhood cancer etc. is not done enough. In order to overcome these challenges, this study examined the presence or absence of educational opportunities for each hospital, the presence or absence of an implementation school name, the presence or absence of a ward nursery teacher, the presence or absence of CLS or HPS, and the presence or absence of clinical psychologists at 108 hospitals such as pediatric cancer treatment facilities. Of the 108 hospitals, 82 are in-hospital classes for elementary school students, and visiting education is conducted at 25 locations. For junior high school students, in-hospital classes are set up at 78 locations, and visiting education is conducted at 30 locations. For high school students, the establishment of in-hospital classes and the implementation of visiting education are extremely small. Ward nursery teachers have been installed in 105 locations, and CLS or HPS has been installed in 39 locations. For clinical psychologists, the adoption rate is close to 100%.

Key words: children in hospital, children's cancer care center hospital, support system,  
in-hospital class, ward nursery teacher

キーワード：入院中の子ども，小児がん診療拠点病院等，支援体制，院内学級，病棟保育士

### 1. 問題の所在と本論の目的

医療の進歩により小児がんの治癒率は向上し、小児がんの中で最も多い小児白血病の長期生存率は70%を超えるようになった。しかし治療のために長期間の入院を必要とするケースはまだ多く、子どもの発達の観点からすると保育・教育的支援、心理職によるストレスの軽減に向けた支援が必要である。このことが近年は病院や国においても認

識されるようになり、病棟保育士の導入に関しては、子ども1人あたり1日800円が保険点数加算として国から病院に支払われる制度が設けられた。また病棟保育士の業務内容に加え、家族も支援対象に含めた心理専門職としてのより高い機能をもつチャイルド・ライフ・スペシャリスト（以下、CLS）やホスピタル・プレイ・スペシャリスト（以下、HPS）を導入する病院も出てきている。

院内学級に関しては小中学生を対象とした院内

1) 育英短期大学保育学科

学級が多く設置されているが、都道府県立の特別支援学校又はその分校・分教室である場合と区市町村立の特別支援学級の形をとるものがあり、特に後者に関しては全国的に把握できる公的な資料が存在していない。

また入院中の高校生については、義務教育段階とは異なり、院内学級に学籍を異動する場合にはそれまで通っていた高等学校を退学しなければならず、退院後に年度途中で復学することができないケースもある。そのような状況から、自治体によっては学籍は入院前の高等学校のままで病院内で何らかの教育的支援をおこなっているケースもある。そのような場合は、学籍が無いので全国特別支援学校実態調査（全国特別支援学校校長会編）等の資料には表れてこない。

このように小児がん等で入院中の子どもの保育・教育的支援は少しずつ進んできてはいるものの、その実態の把握は十分におこなわれていないという課題がある。その課題の克服に向けた一助として、本論は小児がん診療拠点病院等<sup>(注1)</sup> 108カ所の病院の、病院ごとの教育機会の有無、実施形態、実施学校名、病棟保育士の配置の有無、CLS又はHPSの配置の有無、臨床心理士の配置の有無を明らかにし、以下に示す仮説を検証することで今後の課題を明らかにすることを目的に記す。

## 2. 研究の方法と仮説

多くの病院関係者、学校関係者、支援団体関係者から情報をもとに病院や学校、教育委員会のHPや電話での確認（2020年4月～9月）という方法で、小児がん診療拠点病院等（108病院）における以下の事項について調査をおこなった。

### (1) 調査項目

「院内学級の有無（小中学生）」「訪問教育の有無（小中学生）」「院内学級の有無（高校生）」「訪問教育の有無（高校生）」「病棟保育士の配置の有

無」 「CLS又はHPSの配置の有無」 「臨床心理士の配置の有無」

### (2) 仮説

- ① 病棟保育士は、国として保険点数加算がおこなわれるようになったこと及び今回の調査対象が小児がん診療拠点病院等としたことから多くの病院に配置されているのではないかと。
- ② CLS及びHPSの資格取得にはアメリカ又はイギリスの大学院で専門課程を修了する必要があることから、配置はごく僅かではないかと。
- ③ 入院中の小中学生に対する教育は、各県に病弱特別支援学校が1校以上あること及び今回の調査対象が小児がん診療拠点病院等（108病院）であることから、全ての学校に院内学級又は訪問による教育がおこなわれており、その多くに院内学級が設置されているのではないかと。
- ④ 入院中の高校生への教育保障は、小中学生と比べると進んでおらず、実施している自治体では独自の工夫がおこなわれているのではないかと。
- ⑤ 大人に対してのインフォームド・コンセントが進んでいる現状及び子どもへのプライバシーも進みつつある状況から、臨床心理士の配置は全ての病院でおこなわれているのではないかと。

## 3. 調査結果：全国の小児がん診療拠点病院等における病院内学級・訪問教育・病棟保育士・CLS又はHPS、臨床心理士の設置状況

表1 病院内学級及び訪問教育、病棟保育士等の有無一覧

病 院 名	院内学級の有無 (小中学生)	訪問教育の有無 (小中学生)	院内学級の有無 (高校生)	訪問教育の有無 (高校生)	病 棟 保 育 士	CLS 又は HPS	臨 床 心 理 士	病院内学級・訪問学級の学校名	備 考
北海道大学病院	○	—	×	×	○	×	○	小：札幌市立幌北小学校 中：札幌市立北辰中学校	
札幌北楡病院	×	○	×	×	○	×	×	北海道札幌養護学校	高校生学習支援のために病院が独自で「教育ボランティア」を募集している（1日2時間・週3回）。 高校生の学習支援の必要性をHPでもうたっている。
札幌医科大学附属病院	×	○	×	×	○	×	○	北海道手稲養護学校	
北海道立子ども総合医療・療育センター	×	○	×	×	○	×	○	北海道手稲養護学校	
旭川医科大学病院	×	○	×	×	○	×	○	北海道東川養護学校	
北海道医療センター※	○	—	○	—	○	×	○	札幌市立札幌山の手支援学校	腎臓病・代謝異常症を中心に慢性疾患の子どもの入院が多い。高校生も学籍を異動する。退院後に復学ができるように支援するが、最終的には復学先の判断。
弘前大学医学部附属病院	○	—	×	×	○	×	○	小：弘前市立朝陽小学校 中：弘前市立第四中学校	
岩手医科大学附属病院	×	○	×	×	○	×	○	岩手県立盛岡青松支援学校	
東北大学病院	○	—	×	*1	○	○	○	小：仙台市立木町通小学校 中：仙台市立第二中学校	*1 2019年度よりタブレット端末などを使った遠隔授業や病棟への教師派遣事業を支援する国の事業「高等学校段階における入院生徒に対する教育保障体制整備保障事業」に採択され、2020年度より「入院している高校生への学習支援」制度開始。 遠隔授業と教員の訪問による対面指導の組み合わせにより実施。いずれも入院前の高等学校が実施（注1）。東北大学医学部の学生ボランティアによる支援もある。
宮城県立こども病院	○	—	×	*1	○	○	○	宮城県立拓桃支援学校	同上
秋田大学医学部附属病院	○	—	×	×	○	×	○	小：秋田市立広面小学校 中：秋田市立東城中学校	
山形大学医学部附属病院	○	—	×	×	○	×	○	小：山形市立蔵王第一小学校 中：山形市立蔵王第一中学校	
福島県立医科大学附属病院	○	—	×	○	○	×	○	小中：福島県立須賀川特別支援学校医大校 高：福島県立郡山萌世高校通信教育課程	高校生は県立高校の通信制に一時的に学籍を移し病院にそこから教員が派遣されている。2016年度より実施。
茨城県立こども病院	×	○	×	×	○	○	○	茨城県立友部東特別支援学校	月・火・木・金の週4日訪問
筑波大学附属病院	×	○	×	×	○	×	○	茨城県立友部東特別支援学校	月・火・木・金の週4日訪問 高等部は重度重複学級のみ
獨協医科大学とちぎ子ども医療センター	○	—	×	×	○	×	○	栃木県立栃木特別支援学校ひばり分教室	高等部は設置されていないが「自主学習」の支援を2019年度より栃木県教育委員会として開始した。「場所の提供」「高校からの課題の授受や連絡事項の伝達」などがおこなわれている。
自治医科大学とちぎ子ども医療センター	○	—	×	×	○	×	○	栃木県立岡本特別支援学校おおり分教室	同上
群馬県立小児医療センター	○	—	*2	*2	○	×	○	群馬県立赤城特別支援学校小児医療センター分枝	*2 高校生には特別支援学校（病弱）高等部からの教員派遣及び分校の小中学部の教員が教員免許の教科の種類に応じて対応している。
群馬大学医学部附属病院	○	—	*3	*3	○	×	○	群馬県立赤城特別支援学校群馬大学医学部附属病院分教室	*3 高校生には特別支援学校（病弱）高等部からの教員派遣及び分教室の小中学部の教員が教員免許の教科の種類に応じて対応している。
埼玉県立小児医療センター	○	—	*4	*4	○	○	○	埼玉県立けやき特別支援学校	*4 非常勤講師がほぼ常駐の状態。ただし非常勤講師の所属は入院前の高校からの派遣をとっている。よって制度上は特別支援学校高等部が設置されているという形ではない。
埼玉医科大学国際医療センター	小○ 中×	小一 中○	×	×	×	×	○	小：日高市立高麗川小学校 中：埼玉県立日高特別支援学校	
千葉大学医学部附属病院	×	○	×	○	○	×	○	千葉県立仁戸名特別支援学校	訪問学級となっているが教室が院内にある。高校生の復学に向けた工夫は、前籍校と協議し科目の読替などの単位認定について確認をし、退院後は戻れるようにしている。各教科担当者が訪問している。
日本医科大学千葉北総病院	○	—	×	○	○	○	○	千葉県立四街道特別支援学校	文部科学省研究開発学校指定「高等部におけるICTを活用した遠隔教育」（平成27年度～30年度） 前籍校の教員からの双方向的遠隔授業や生徒の状況によってはオンデマンド型をおこない卒業に必要な単位の1/2を上限に単位を認定する。残りの単位は訪問教育にておこなう。1人1台のデバイスがあれば受信側に教員は置かない。その他の病院及び家庭へも高校生への訪問教育を、教員が行かれる範囲の距離であれば実施している。状況によりICT機器を使用している。
千葉県こども病院	○	—	○	—	○	○	○	千葉県立袖ヶ浦特別支援学校	高校生の復学に向けた工夫は、前籍校と協議し科目の読替などの単位認定について確認し、退院後は戻れるようにしている。ICT機器を使った取り組みは実施していない（2019年度）。

病 院 名	院内学級の有無 (小中学生)	訪問教育の有無 (小中学生)	院内学級の有無 (高校生)	訪問教育の有無 (高校生)	病 棟 保育士	CLS 又は HPS	臨 床 心理士	院内学級・訪問学級の学校名	備 考
国立成育医療研究センター	○	—	○	—	○	○	○	東京都立光明学園そよ風分教室	入院中の高校生が院内学級又は訪問学級で教育を受ける場合は、原則として学生を特別支援学校に異動しておく。退院時の復学に向けて課題がある。
東京都立小児総合医療センター	○	—	×	○	○	○	○	小中：東京都立武蔵台学園武蔵台学園分教室 高：東京都立小平特別支援学校(訪問教育)	同上
日本大学医学部附属板橋病院	×	○	×	○	○	○	○	東京都立北特別支援学校	同上
東京医科歯科大学医学部附属病院	×	○	×	○	○	○	○	東京都立北特別支援学校	同上
東京大学医学部附属病院	○	—	○	—	○	×	○	東京都立北特別支援学校こだま分教室	同上
東京慈恵会医科大学附属病院	×	○	×	○	○	×	○	東京都立光明学園	同上
日本医科大学付属病院	×	○	×	○	○	×	○	東京都立北特別支援学校	同上
東京女子医科大学病院※	○	—	×	○	○	×	○	小：新宿区立余丁町小学校 中：新宿区立新宿養護学校 高：東京都立光明学園	同上
慶應義塾大学病院	×	○	×	○	○	×	○	小中：新宿区立新宿養護学校 高：東京都立光明学園	同上
東邦大学医療センター大森病院	×	○	×	○	○	○	○	東京都立光明学園	同上
順天堂大学医学部附属順天堂医院	×	○	×	○	○	×	○	東京都立北特別支援学校	同上
聖路加国際病院	×	○	×	○	○	○	○	東京都立墨東特別支援学校	同上
国立がん研究センター中央病院	○	—	○	—	○	×	○	東京都立墨東特別支援学校いるか分教室	同上
杏林大学医学部付属病院	×	○	×	○	○	×	○	東京都立小平特別支援学校	同上
神奈川県立こども医療センター	○	—	×	○	○	○	○		在籍している神奈川県立高校から病院に教諭・非常勤講師を派遣している。2014年9月より実施。1週間当たり6コマが上限。20日以上入院が対象。長期入院の県立高校生は百数十人。単位認定・進級は校長の判断となる。
北里大学病院※	○	—	×	○	○	×	○		同上
横浜市立大学附属病院	○	—	×	○	○	○	○		同上
東海大学医学部附属病院	○	—	×	○	○	×	○		同上
昭和大学藤が丘病院 小児・AYA世代がんセンター※	○	—	×	○	○	×	○		同上
聖マリアンナ医科大学病院	○	—	×	○	○	×	○		同上
山梨大学医学部附属病院	○	—	×	×	○	×	○	小：中央市立玉徳南小学校 中：中央市立玉徳中学校	
新潟大学医学部総合病院	○	—	×	×	○	○	○	小：新潟市立白山小学校 中：新潟市立柳都中学校	
新潟県立がんセンター新潟病院	○	—	×	×	○	○	○	小：新潟市立鏡淵小学校 中：新潟市立白新中学校	
信州大学医学部附属病院	○	—	×	×	○	×	○	小：松本市立旭町小学校 中：松本市立旭町中学校	
長野県立こども病院	○	—	×	×	○	○	○	小：安曇野市立豊科南小学校 中：安曇野市立豊科南中学校	
富山大学附属病院	○	—	×	×	○	○	○	小：富山県立古沢小学校 中：富山県立呉羽中学校	高校生の教育は、重度心身障害をもつ子どもを対象としており、小児がん等により入院中の高校生は対象としていない。
金沢大学附属病院	○	—	×	×	○	×	○	小：金沢市立小立野小学校 中：金沢市立紫綿台中学校	金沢大学医学部学生サークル「KURE」が院内家庭教師活動をボランティアでおこなっている。
岐阜大学医学部附属病院	○	—	×	×	○	×	○	小：岐阜市立黒野小学校 中：岐阜市立岐北中学校	
岐阜市民病院	○	—	×	×	○	×	○	小：岐阜市立本荘小学校 中：岐阜市立本荘中学校	
静岡県立こども病院	○	—	×	×	○	○	○	静岡県立中央特別支援学校	
浜松医科大学医学部附属病院	○	—	×	×	○	×	○	小：浜松市立有玉小学校 中：浜松市立積志中学校	
名古屋大学医学部附属病院	○	—	×	○	○	○	○	愛知県立大府特別支援学校	高校生には入院前の高等学校からの教員派遣がおこなわれている。
名古屋第一赤十字病院	小○ 中×	小一 中○	×	○	○	×	○	小：名古屋市中村小学校 中：愛知県立大府特別支援学校	同上
名古屋医療センター	小○ 中×	小一 中○	×	○	×	○	○	小：名古屋市立名城小学校 中：愛知県立大府特別支援学校	同上
名古屋市立大学病院	小○ 中×	小一 中○	×	○	○	○	○	小：名古屋市立汐路小学校 中：愛知県立大府特別支援学校	同上
藤田医科大学病院	○	—	×	○	○	×	○	愛知県立大府特別支援学校	同上
愛知医科大学病院	小○ 中×	小一 中○	×	○	○	○	○	小：長久手市立長久手小学校 中：愛知県立大府特別支援学校	同上

病 院 名	院内学級の有無 (小中学生)	訪問教育の有無 (小中学生)	院内学級の有無 (高校生)	訪問教育の有無 (高校生)	病 棟 保育士	CLS 又は HPS	臨 床 心理士	院内学級・訪問学級の学校名	備 考
三重大学医学部附属病院	×	○	×	* 5	○	○	○	三重県立かがやき特別支援学校	* 5 三重県教育委員会は令和2年度予算に「入院中の高校生の学習保障に係る仕組みについて研究」を組み込む。文部科学省にも委託事業として申請。三重県教育委員会は2019年度よりタブレット端末などを使った遠隔授業や病棟への教師派遣事業を支援する国の事業に採択された。2020年4月現在、国立病院機構三重病院等への肢体不自由児等への遠隔授業の取り組みは見られるが、三重大学附属病院での小児がんの高校生への遠隔授業や教員派遣の実施は未だ確認できていない。
福井大学医学部附属病院	○	×	×	×	○	○	○	小中：福井県立福井東特別支援学校五領分教室 高：福井県立福井東特別支援学校訪問部	高校生は重度心身障害等での長期入院が対象でがんと等の急性疾患には対応していない。
滋賀医科大学附属病院	○	×	×	×	○	×	○	小：大津市立瀬田東小学校 中：大津市立瀬田中学校	
大津赤十字病院	○	×	* 6	×	×	×	○	滋賀県立守山養護学校大津分教室	* 6 入院中の高校生は県立高校の通信教育課程に在籍し、県立養護学校がその協力校として指導をおこなっている。また就学前の幼児へも「教育相談」活動として支援をおこなっている。
京都府立医科大学附属病院	○	×	* 7	×	○	○	○	京都市立桃陽総合支援学校府立医大分教室	* 7 高等部への支援は2種類。(1)入院前の在籍校とICT機器でつないだ遠隔授業(2017年度より実施)(2)院内で学生ボランティアによる高校生学習会の開催(週3回各1時間)いずれも病院内学級内の支援センターによるセンター的機能という位置づけで実施。
京都大学医学部附属病院	○	×	* 7	×	○	○	○	京都市立桃陽総合支援学校京大病院分教室	同上
京都市立病院	○	×	* 8	* 8	○	×	○	京都市立桃陽総合支援学校市立病院分教室	* 8 京都市教育委員会は、文部科学省による入院中の高校生への遠隔授業や教師派遣の調査研究委託事業(2019年度)に応募し採択され、今後、京都市内の他の病院でも実施体制を整える。国の委託先は都道府県・政令指定都市合計5か所(2019年度、総額2600万円)。
奈良県立医科大学附属病院	○	×	×	×	○	×	○	小：橿原市立今井小学校 中：橿原市立大成中学校 高：奈良県立奈良養護学校	高校生は重度心身障害をもつ生徒のみを対象としている。奈良県立医科大学の学生サークルがボランティアで学習支援を実施。
和歌山県立医科大学附属病院	○	×	×	×	○	×	○	小：和歌山市立名草小学校 中：和歌山市立明和中学校	
大阪市立総合医療センター	○	×	×	○	○	○	○	小中：大阪府立光陽支援学校総合医療センター分教室	高校生は学籍を移さず、県からの教員が訪問教育をおこなう。
大阪母子医療センター	○	×	×	○	○	○	○	小中：大阪府立羽曳野支援学校大阪母子医療センター分教室	同上
大阪大学医学部附属病院	○	×	×	○	○	○	○	小中：大阪府立刀根山支援学校大阪大学医学部附属病院分教室	同上
大阪市立大学医学部附属病院	○	×	×	○	○	×	○	小中：大阪府立光陽支援学校大阪市立大学附属病院分教室	同上
近畿大学医学部附属病院	○	×	×	○	○	○	○	小中：大阪府立羽曳野支援学校近畿大学医学部附属病院分教室	同上
大阪赤十字病院	×	○	×	○	○	×	○	小中：大阪府立光陽支援学校	同上
北野病院	×	○	×	○	○	×	○	小中：大阪府立刀根山支援学校	同上
神戸大学医学部附属病院	○	×	×	○	○	×	○	小：神戸市立神戸祇園小学校 中：神戸市立湊翔楠中学校 高：神戸市立友生支援学校	2020年度より兵庫県教育委員会は入院中の高校生に対して遠隔授業や教員派遣の調査研究をはじめ。予算500万円。「ノウハウが浸透すれば、潜在的なニーズもつかめる。治療していても学びをあきらめなくすむ環境を整えたい」神戸新聞(2020年2月21日)
兵庫県立こども病院	○	×	×	○	○	○	○	神戸市立友生支援学校	同上
鳥取大学医学部附属病院	○	×	×	×	○	×	○	小：米子市立就將小学校 中：米子市立湊山中学校	
島根大学医学部附属病院	○	×	×	×	○	○	○	小：出雲市立塩治小学校 中：出雲市立第二中学校	
岡山大学病院	○	×	×	×	○	×	○	小：岡山市立鹿田小学校 中：岡山市立桑田中学校	高校生への病院訪問は肢体不自由、重度重複障害のみを対象としており、小児がんによる入院中の高校生は対象としていない。
倉敷中央病院	○	×	×	×	○	×	○	小：倉敷市立倉敷東小学校 中：倉敷市立倉敷東中学校	同上
広島大学病院	○	×	×	×	○	○	○	小：広島市立比治山小学校分校 中：広島市立段原中学校分校	高校生へのICTを使った遠隔教育を2018年度から実施。2019年度11月より教員がそばにいない場合でも単位を認定する(医師、看護師ら第三者が授業の様子を一定観察できることを要件とする)。「オリヒス」を使用。文部科学省は2015年に卒業に必要な単位の半分未満を上限に、「双方向型の遠隔授業による単位認定を認めたが「原則、受信側に教員を配置する」との留意事項を付けていた。しかし2019年11月にその留意事項を削除した。



病 院 名	院内学級の有無 (小中学生)	訪問教育の有無 (小中学生)	院内学級の有無 (高校生)	訪問教育の有無 (高校生)	病棟 保育士	CLS 又は HPS	臨床 心理士	院内学級・訪問学級の学校名	備 考
広島赤十字・原爆病院	○	—	×	×	○	×	○	小：広島市立千田小学校 中：広島市立国泰寺中学校	同上
山口大学医学部附属病院	○	—	×	×	○	×	○	小：宇部市立新川小学校 中：宇部市立神原中学校	
徳島大学病院	小：× 中：○	—	×	×	○	×	○	中：徳島市立加茂名中学校	
香川大学医学部附属病院	○	—	×	×	○	×	○	小：三木町立平井小学校 中：三木町立三木中学校	高校生への訪問教育は重度心身障害をもつ生徒を対象としており小児がんで入院中の高校生は対象となっていない。
四国こどもとおとなの医療センター	○	—	×	×	○	×	○	香川県立善通寺養護学校	院内学級での教科指導は基本的に義務教育段階のみを対象としている。精神疾患による年度途中の編入もあったが地域の高校へ戻る例は未だない。
愛媛大学医学部附属病院	○	—	×	×	○	×	○	小：東温市立吉井小学校 中：東温市立重信中学校	中学生には5人の教員（5教科）が常駐して対応。学齢期の希望者は愛媛大学教育学部・医学部、愛媛県立医療技術大学等の学生ボランティアによる学習支援を受けられる。重度心身障害をもつ子どもについては小・中・高ともに県立特別支援学校が訪問教育をおこなっている。
愛媛県立中央病院	○	—	×	×	○	×	○	小：松山市立雄郷小学校 中：松山市立雄新中学校	学齢期の希望者は愛媛大学教育学部・医学部、愛媛県立医療技術大学等の学生ボランティアによる学習支援を受けられる。重度心身障害をもつ子どもについては小・中・高ともに県立特別支援学校が訪問教育をおこなっている。
松山赤十字病院	○	—	×	×	○	×	○	小：松山市立清水小学校 中：松山市立勝山中学校	同上
高知大学医学部附属病院	○	—	×	×	○	×	○	小中：高知県立高知江ノ口特別 支援学校高知大学医学部 附属病院分校	
高知医療センター	○	—	×	×	○	×	○	小：高知市立三里小学校 中：高知市立三里中学校	
九州大学病院	○	—	×	×	○	○	○	小：福岡市立千代小学校 中：福岡市立千代中学校	
国立九州がんセンター	○	—	×	×	○	×	○	小：福岡市立野多目小学校 中：福岡市立三宅中学校	
福岡大学病院	○	—	×	×	○	○	○	小：福岡市立南片江小学校 中：福岡市立梅林中学校	
久留米大学病院	○	—	×	×	○	○	○	小：久留米市立篠山小学校 中：久留米市立城南中学校	
産業医科大学病院	×	○	×	×	○	×	○	北九州市立八幡西特別支援学校	
佐賀大学医学部附属病院	○	—	×	×	○	×	○	小：佐賀市立鍋島小学校 中：佐賀市立鍋島中学校	
長崎大学病院	○	—	×	×	○	×	○	小：長崎市立坂本小学校 中：長崎市立山里中学校	
熊本大学病院	○	—	×	×	○	×	○	小：熊本市立慶徳小学校 中：熊本市立藤園中学校	2014年に院内学級（小・中）開設
熊本赤十字病院	○	—	×	×	○	×	○	同上	同上
大分大学医学部附属病院	○	—	×	×	○	×	○	小：由布市立由布小学校 中：由布市立狭間中学校	
宮崎大学医学部附属病院	×	○	×	×	○	○	○	宮崎県立赤江まつばら支援学校	
鹿児島大学病院	×	○	×	×	○	×	○	鹿児島県立桜丘養護学校	
琉球大学医学部附属病院	×	○	×	○*9	○	×	○	沖縄県立森川特別支援学校	*9 訪問学級ではあるが教室が設置されている。高校生は学籍を特別支援学校に移して教育を受ける。入院前の高等学校と連携を取り退院後の復学を可能としている。
沖縄県立南部医療センター・こども医療センター	×	○	×	○*9	○	○	○	同上	同上

太字：小児がん診療拠点病院又は小児がん中央機関  
※：2019年度まで小児がん診療連携病院

#### 4. 仮説の検証と考察

仮説①については、病棟保育士は全 108 病院中 105 病院に導入されており、病棟保育士のいない 3 病院のうち 1 つには CLS 又は HPS が導入されている。小児がん診療拠点病院等に関しては病棟保育士の導入はかなり進んでいるといっただろう。

仮説②については、CLS 又は HPS は 39 か所にとどまっており、病棟保育士と比べると極めて少ない。この理由が、病棟保育士になるための必要資格が「保育士資格」であることに対し<sup>(注2)</sup>、CLS や HPS はより深く広い専門性が求められる資格であり、その資格取得のためには CLS はアメリカの大学院で、HPS はイギリスの大学院で専門課程を修める必要があることから、採用の対象となる人材が少ないことに起因するものであれば、国として人材育成のシステムをどうするかということが大きな課題である。一方、そのような取得が難しく資格保持者が少ない状況の中で、39 か所 (36%) の病院が導入しているということは、このような人材のニーズが病院にはあるということではないだろうか。

仮説③については、全 108 病院の内、小学生については 82 か所 (76%) で院内学級が設置され、25 か所 (23%) で訪問教育が実施されている。また中学生については 78 か所 (72%) で院内学級が設置され、30 か所 (28%) で訪問教育が実施されている。院内学級と訪問教育を合わせればほぼ 100% という結果になった。授業時数の確保という観点からは、多くの訪問教育が週 3 回、1 日当たり 2 コマ程度という実態を鑑みると、院内学級の形態の方が望ましい。小児がん診療拠点病院等であっても約 1/4 で院内学級は設置されておらず訪問教育で対応しているという実態が、今回、明らかになった。オンラインの導入なども含めて、子どもの教育的ニーズに応じた教育機会の十分な確保を進めるための検討が喫緊の課題である。

仮説④については、高校生に何らかの形で教育的支援をおこなっている病院は、52 か所 (48%) と義務教育段階と比べると極めて少ないことが明らかになった。また、支援をおこなっている場合においても、義務教育段階とは異なる、それぞれ独自の特徴のある対応をとっているところもある (表 1 の\*) ことが明らかになった。これについてはさらに個別的な深い分析・考察が必要なため、別の機会に論じることとする。

仮説⑤については、臨床心理士は 107 病院に導入されており導入率は 100% に近いことが明らかになった。これは入院治療に伴う様々なストレスの存在及びその軽減をはかっていく必要があることが、小児がん診療拠点病院等では共通した認識となっていることの表れの一つではないだろうか。

#### 5. 今後の課題

小児がん診療拠点病院等の数は、都道府県単位でみると都市部は別としてほぼ各県に 1 から 3 か所である。また病弱教育を担当する特別支援学校もほぼ 1、2 校である。よって、自治体の枠を超えて、様々な情報の共有、工夫や実践例の共有をしていくことが、各自治体、病院や院内学級それぞれの改善には必要かつ有効であると考えられる。本論がその一助になれば幸いである。

今回は支援体制の現状把握をおこない、設置状況という視点からの課題の明確化を試みた。具体的な支援内容についての把握、検討をしていくことが今後の重要課題であることはいうまでもない。支援形態だけでも様々であることから、さらに支援内容の検討を行う場合には、個別的な調査・検討が必要になるであろう。子どものニーズに応じた支援が着実に前進するために、個別的な現状もしっかりとふまえて研究を進め、現場の改善につなげていきたい。

## 謝辞

多くの病院関係者、学校関係者、支援団体関係者の方から情報をいただいた。ここにあらためて感謝の意を表したい。

## 注 1

小児がん等の難病の治療は、現在、都道府県ごとに特定の病院に集約する傾向があることから、「小児がん診療拠点病院等」を対象とすることとした。本論における「小児がん診療拠点病院等」とは、小児がん診療拠点病院 15 カ所と主な小児がん診療連携病院 94 カ所を表す。「主な」とは国立成育医療研究センター HP の「全国の小児がん診療施設の情報」において他の診療連携病院と比較して同等程度以上の小児がんの入院患者数がある病院とした。ただしそのような小児がん診療連携病院でも調査項目について、学校 HP や病院 HP 及び学校関係者、支援団体等からの情報により確認ができなかったものは除いた。

## 注 2

病棟保育士は制度的には保育士資格で就職することができる。ただし病棟保育士には、入院中の子どもを保育する上での病気や治療についての理解や入院生活による影響を鑑みた心理的な支援も求められる。このような要請に応えるために、日本医療保育学会は「医療保育専門士」という学会認定資格を設け、その養成・研修にあたっている。

## 【参考文献】

- 1) 国立成育医療研究センター (2019) 全国の小児がん診療施設の情報, (オンライン), 入手先 [https://www.ncchd.go.jp/center/activity/cancer\\_center/cancer\\_hospitalist/index.html](https://www.ncchd.go.jp/center/activity/cancer_center/cancer_hospitalist/index.html) (参照 2019-9-24)
- 2) 国立成育医療研究センター (2020) 小児がん連携病院一覧, (オンライン), 入手先 [https://www.ncchd.go.jp/center/activity/cancer\\_center/cancer\\_kyoten/renkei\\_list.html](https://www.ncchd.go.jp/center/activity/cancer_center/cancer_kyoten/renkei_list.html) (参照 2020-5-29)
- 3) 「平成 30 年度 全国特別支援学校実態調査」全国特別支援学校長会編
- 4) 札幌北楡病院 HP, (オンライン), 入手先 [www.hokuyu-aoth.org](http://www.hokuyu-aoth.org) (参照 2019-10-2)
- 5) 札幌市立山の手養護学校 HP, (オンライン), 入手先 [www.yamanote-ejh.sapporo-c.ed.jp](http://www.yamanote-ejh.sapporo-c.ed.jp) (参照 2019-10-1)
- 6) 東北大学病院 HP, (オンライン), 入手先 <https://www.hosp.tohoku.ac.jp> (参照 2019-10-23)
- 7) 茨城県立友部東特別支援学校 (2019) 学校案内
- 8) 埼玉県立けやき特別支援学校 HP, (オンライン), 入手先 <https://keyaki-sh.spec.ed.jp> (参照 2019-9-19)
- 9) 千葉県立仁戸名特別支援学校 HP, (オンライン), 入手先 <http://www.chiba-c.ed.jp/nitona-sh> (参照 2019-9-19)
- 10) 千葉県立袖ヶ浦特別支援学校 HP, (オンライン), 入手先 <https://www.chiba-c.ed.jp/sodegaura-sh> (参照 2019-9-19)
- 11) 千葉県立四街道特別支援学校 HP, (オンライン), 入手先 <https://www.chiba-c.ed.jp/yotsukaido-h> (参照 2019-9-19)
- 12) 東京都教育委員会 (2019) 東京都における病院内教育, (オンライン), 入手先 <https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp> (参照 2019-5-9)
- 13) 富山県立ふるさと支援学校 HP, (オンライン), 入手先 [www.furusato-sh.tym.ed.jp](http://www.furusato-sh.tym.ed.jp) (参照 2019-12-5)
- 14) 金沢大学附属病院 HP, (オンライン), 入手先 <https://web.hosp.kanazawa-u.ac.jp> (参照 2019-12-9)
- 15) 滋賀県立守山養護学校 HP, (オンライン), 入手先 [www.moriyama-sh.shiga-ec.ed.jp](http://www.moriyama-sh.shiga-ec.ed.jp) (参照 2020-12-17)
- 16) 京都市立桃陽総合支援学校 HP, (オンライン), 入手先 <http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/toyo-y/> (参照 2020-1-23)
- 17) 奈良県立奈良養護学校 HP, (オンライン), 入手先 <http://www.e-net.nara.jp/sns/narayougo> (参照 2020-1-24)
- 18) 奈良県立医科大学附属病院 HP, (オンライン), 入手先 [www.narmed-u.ac.jp/hospital](http://www.narmed-u.ac.jp/hospital) (参照 2020-1-24)
- 19) 岡山県立早島特別支援学校 HP, (オンライン), 入手先 [www.hayasima.okayama-c.ed.jp](http://www.hayasima.okayama-c.ed.jp) (参照 2020-1-27)
- 20) 香川県立高松養護学校 HP, (オンライン), 入手先 <https://www.kagawa-edu.jp/takayo02/htdocs> (参照 2020-2-14)
- 21) 香川県立善通寺養護学校 HP, (オンライン), 入手先 [https://www.kagawa-edu.jp/zenyo02/htdocs/index.php?page\\_id=0](https://www.kagawa-edu.jp/zenyo02/htdocs/index.php?page_id=0) (参照 2020-2-14)



- 22) 愛媛大学医学部附属病院 HP, (オンライン), 入手先  
<https://www.hsp.ehime-u.ac.jp> (参照 2020-2-15)
- 23) 愛媛県立しげのぶ特別支援学校 HP, (オンライン), 入手先  
[shigenobu-ss.esnet.ed.jp](http://shigenobu-ss.esnet.ed.jp) (参照 2020-2-15)
- 24) 愛媛県立中央病院 HP, (オンライン), 入手先  
[www.eph.pref.ehime.jp/epch](http://www.eph.pref.ehime.jp/epch) (参照 2020-2-15)
- 25) 松山赤十字病院 HP, (オンライン), 入手先  
[www.matsuyama.jrc.or.jp](http://www.matsuyama.jrc.or.jp) (参照 2020-2-15)
- 26) 長崎県がん診療連携協議会相談支援ワーキンググループ (2016) がんと向き合うサポートブックながさき
- 27) 沖縄県立森川特別支援学校 HP, (オンライン), 入手先  
<https://www.morikawa-sh.open.ed.jp> (参照 2019-9-2)
- 28) 文部科学省 (2020) 高等学校段階における入院生徒に対する教育保障体制整備事業

(2021 年 1 月 13 日受理)